

# e-dream-s 通信

No.36 発行：2003年7月13日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次	1	懐疑的な人間の平和運動	辻荘一	p2
	2	百聞は一見にしかず、か？	井川好二	p3
	3	“ヒョーカ”の時代	中川房代	p6
	4	ECAP2003 Korea テキスト作成について	塚本美紀	p8
	5	ECAP2003 Korea 参加者について	山本貴子	p9
	6	第3回 ECAP 学習会報告（大阪）	山本貴子	p10
	7	第3回 ECAP 学習会報告（東京）	岡田かおる	p11
	8	“ECAP2004 Vietnam”の準備について	飯田佐恵	p12
	9	@aglance 教材作成・収集プロジェクトより	道面和枝	p14
	10	カメルーン・ピグミーとの出会い（その3）	山田昌子	p15
	11	お知らせ 「Yahoo! で紹介されます。」		p19
		「第13,14回理事会 および 第4回定時会員総会」		p20



モンゴル・トゥブ県 トーラ河(2)

© e-dream-s

夏の暑さも忘れさせる  
おすすめの1枚！

空を写すトーラ河の美  
しい流れ  
(井村康雄氏 撮影)

# 懐疑的な人間の平和運動

辻 莊一

私は基本的には、人間の存在や人間の感覚を超えたものは存在するかもしれないと思っ  
ている。しかしそれがU F Oやスプーン曲げといったオカルティックな形をとって現れると、  
とたんに懐疑的になる。

また、人間が平和に仲良く暮らせるようになればいいとは思っているが、平和のためのデ  
モ・署名といった活動も基本的には信じない。第一その効果がハッキリしないし、効果のハ  
ッキリしないものに入れあげて陶酔する事もしたくないのである。

U F Oやスプーン曲げを信じたり、平和のためのデモ・署名で燃えるといったようなことが、  
超能力への理解や本当に平和な世界の実現から、私たちを遠ざけることになっていると思  
うのである。

かといって、毎日楽しく暮らして旨いもの食いながら、あれも駄目これも駄目といってい  
るだけの人間で終わりたくもない。じゃあ、どうすればいいと考えての答えが「教育と国際を  
キーワードとする社会貢献を目的とする NPO e-dream-s」という訳である。

e-dream-s のこの夏の目玉は ECAP だ。今後 10 年アジア各国の先生方と議論しながら日本と  
の相互理解教材を作っていくという遠大な計画の、第 1 回が韓国である。すでに韓国の先生  
方とのコンタクトも始まり、教材の作成の準備が進んでいる。この教材が出版されれば画期  
的なものになるのは間違いない。

こんなことが世界平和と何の関係があるの？と思う人もいるかもしれないが、そういう人  
には、平和のためのデモ・署名や人間の盾がどんな効果があるのかを問いたい。私たちが政策  
決定者ならいろいろやり方もあるだろうが、結局私たちは政策決定者を選んだりロビー活動  
することでしか直接政治に影響をもつことはできない。直接的で安易な解決策だけを考え  
て効果の疑わしい運動に自己陶酔するよりも、未来の政策決定者や政策決定者を選ぶ人々に  
影響を与えていくほうが、地味ではあるけれどよっぽど良質な対策だろう。

結局、ロビー活動をする時間や力もない私にとって唯一の選択肢は、毎日楽しく暮らして旨いもの食いながら、e-dream-s を発展させ ECAP 2003 Korea に参加するしかないということになるのである。

e-dream-s.come.true

## 百聞は一見にしかず、か？

井川 好二

百聞は一見にしかず、か？写真やイラストなどのビジュアルは、一目瞭然、と云いながら、伝えたい情報の伝達がそれで充分かと云われると、必ずしもそうではない。テキストがなければ、相手には伝わらないこともたくさんある。テキストとは、つまり、文字情報のことである。そのテキストとビジュアルの、幸せな補完関係が大切なのである。

インターネットの時代になって、文字と疎遠になる人が増えて怪しからん、と云う議論を時々聞くが、事実は全く逆で、インターネットの時代になって、人はますます読み書きをするようになっていないだろうか？このことは、日本の言語教育の真価とも云えるし、「国民総識字」(Literacy)と云うわが国の文明度を示すものでもある。

携帯メールの蔓延は、その端的な例である。教科書はろくに読まない中高生も、メールは真剣に読み書きする。むろん、メディアによって中身が変わると云うことはある。しかし、それはいつの時代でもそうであって、墨をすって徒然なるままに一筆したためていた頃の中身と、万年筆でもの申した時代の中身は、同じであったはずがない。

さて、そのビジュアルとテキストである。漫画はビジュアルとテキストの組み合わせ典型であって、ビジュアルだけではこの文化は成り立たない。

グルメ雑誌の場合を考えてみても、すぐ分かる話で、どのページも、ビジュアルだけ、すなわち料理や店内の写真とアクセス MAP だけと云うのでは、ページの体をなさない。しかし、

これに、値段・営業時間・住所・電話番号などの、客観的テキスト情報だけをプラスしても、まだ、物足りなくて、こんな雑誌は売れないだろう。やはり、大掴みの見出しがあって、メリハリの効いた主観的コメントがあってはじめて人は納得し、その雑誌を信用して、レストランに予約の電話を入れるのである。

ここで、テキストには、客観的情報と主観的情報の2種類あることがわかる。その両方がなければ、コミュニケーションはなりたたない。

最近、ビジュアル抜きのグルメ本が流行っている。「ZAGAT Survey<sup>1</sup>」がそれで、首都圏や関西圏のレストランに関する読者からのコメントを、写真やイラストなしで紹介している。だから、一見、文字ばかりで愛想のない作りだが、このテキスト情報のみでできたグルメ本は、その当を得た辛口批評と、軽快な編集方針で、結構役に立つのだ。本はもともとビジュアル抜きで成り立つメディアであった。

この春、ニューヨークに行った時も、本場?の「ZAGAT Survey New York City Restaurants 2003」を愛用し、それに基づいて食事をして、結構満足した。写真やイラストにかかるコストを、文字情報の充実にまわしているのだろう。その折ランチを食べた、マンハッタンのウエスト・ビレッジにある、イタリア料理店 “LUPA” の記事を紹介すると、

Tables are “hard to come by<sup>2</sup>” at this “terrific” West Village trattoria<sup>3</sup> that “draws throngs<sup>4</sup>” with an “exciting”, “robust<sup>5</sup>” “revelation<sup>6</sup> of simple Italian cooking” that’s “justa lika Roma” at the most “exciting”; the “convivial<sup>7</sup>” ambience, “courteous staff” and “moderate prices” confirm that owners Batali,

---

<sup>1</sup> NY 在住の食べることが大好きな夫婦ティム & ニーナ・ザガットが、著者の主観的な評価だけのガイドブックでは満足できないと、アンケート方式で調査をしたのが始まり。今では、全米を中心に世界 70 都市で発売されているレストランガイドブックです。一般の人のアンケート結果をもとに、「料理」「内装」「サービス」の3項目を30点満点で採点し、ディナーと飲み物1杯分の平均価格を表示。また、アンケートの回答をありのまま、ふんだんに引用したコメントが、レストランごとに付けられています。

<http://www.chintai.co.jp/zagat/>

<sup>2</sup> come by... ...を手に入れる、獲得する[リーダーズ英和辞典第2版]

<sup>3</sup> 料理店、(特に)イタリアの大衆レストラン、トラットリア[リーダーズ英和辞典第2版]

<sup>4</sup> n 群集; 多数, 大勢, 大軍 of ; (人の) ひしめき合い, 人込み, 群れ; (方) (仕事などの) 重み, 重圧.[リーダーズ+プラスV2]

<sup>5</sup> 食事が たっぷりした[リーダーズ+プラスV2]

<sup>6</sup> 明らかにすること[リーダーズ+プラスV2]

<sup>7</sup> a 宴会の; 人と飲み食いするのが好きな, 懇親的な, 陽気な.[リーダーズ+プラスV2]

Bastinach and Denton can do no wrong. (p. 129)

クォテーション・マークの中が、読者からの投書の文章。「いつ行っても混んではいるが、安くて、旨くて、量が多くて、サービスの良いイタリア大衆食堂」だそうである。むろん、“justa lika Roma”とは、just like Rome のイタリア訛り。ローマの食堂と同じって感じか。LUPA で食事をした結果を云えば、まさに、“justa lika Roma!” だった。

時々参考にするメルマガ<sup>8</sup>に、【日刊】「経営戦略考：日経記事から毎日学ぶ経営戦略の原理原則」<sup>9</sup>、というのがあって、その最近の記事に「文字説明でハンデを補う」<sup>9</sup>というのがあった。インターネットを使った通信販売で、Tシャツを月間1000万円売り上げるショップの紹介があって、その秘密とは？商品を「実際に手にとって確認して購入したい」という消費者の欲求に応えるべく、ネット上で「情報開示の徹底」を行っているからだと言う。

通販の難しさの一つは、商品を「手にとって確認」できないという点がある。これはいかんともしがたい。しかしだからと言って、手をこまねいていなかったという点が偉いと思う。

工場の画像の使用や製造法の解説、そして着心地や編み具合などの解説。なるほど、これだけ念入りな記述があれば、商品を手にとるまでもないように感じさせられる。

単価400円～2000円と云うTシャツの通販で、ここまで念入りによる情報開示をするのは、ホントに大変だとは思いますが、こうした地道な努力が、販売に結びついていると云う。たかが、Tシャツ通販と思わずに、この国の国民皆識字文明を、しっかり活用しようとする企業の態度が、成功に結びついている。

ホテルをインターネット予約する際にも同様のことが云える。よく利用している「一休.com<sup>10</sup>」は、写真とテキストの組み合わせが分かりやすい。例えば、ホテルを指定し、「空室情報」で泊まりたい日の空室状況や値段を参照しながら、「詳細」をクリックすると、別ウインドウで、部屋の写真や文字情報が現れる。非常に便利である。

今までは、はじめて泊まるホテルの部屋など、行ってみなければ分からなかったのが、予約

<sup>8</sup> メール・マガジン (mail magazine) [外来語年鑑 2003 年] インターネット上の雑誌。略してメルマガ。[現代用語の基礎知識 2003]

<sup>9</sup> <http://backno.mag2.com/reader/Back?id=0000018894>

<sup>10</sup> <http://www.ikyuu.com/>

するときは不安が残るものだったが、こうしてビジュアルとテキストの組み合わせで提示されると、行く前から納得して、予約することができる。

ここでビジュアルとテキストの関係を纏めると、

- (1) イラストや写真などの「ビジュアル」な手段のみでは、伝えられる内容に限界がある。
- (2) 目的やジャンルによって、ビジュアルな手段に、文字情報(テキスト)を組み合わせることが、必要である。
- (3) テキスト情報には、客観的情報と主観的情報があり、両者の組み合わせが望ましい。

むろん、その文字情報を伝える文章の質も、問題である。「分かりやすく」も、大切だし、「味がある」のがもっと良い。こっちが書く立場になる場合は、しかし、「分かりやすく」を心掛けること。「味がある」とは、蓋し、読者が判断することである。(Saturday, July 12, 2003)

## “ヒョーカ”の時代

中川房代

世間は、「評価ブーム」である。

評価といえば、まず児童・生徒、学生の学習(学力)評価、企業の人事評価が思い浮かぶ。これらは従来からあるものであるが、その基準や評価の内容が変わってきている。例えば、学校現場では、相対評価、絶対評価、到達度評価、観点別評価など、何の目的で、何のために評価するのか、どういう評価を選択するのかなどと論議が忙しい。学期末に生徒や保護者に渡す「通知票」も、(勿論、地域・校種や学校によって事情は異なるが。私の知る限りでは、概して)1~5の相対評価の数字だけの通知票から、絶対評価で数十に及ぶ細かい項目に観点別や到達度の評価を記入する通知票に、と大きく様変わりしてきている。

政治の分野でも、地方自治体ごとに、独自の「行政評価システム」に基づく行政評価が行われ、市民に公開されるようになってきた。また、今まであまり評価される側としては縁のな

かった教職員に対しても、「業績・人事評価制度<sup>11</sup>」が導入されつつある。

NPO も例外ではない。

15,000 に及ぶ NPO 法人が登場した現在、NPO は日本の中で 1 つの勢力・部門として社会的に認知され、注目されてきている。就職・求人雑誌にも「金融業界」「旅行業界」などと並んで、最近では「NPO 業界」というカテゴリーも登場しているようだ。

ほんの 2~3 年前は、NPO のことで市役所などに問い合わせても、「は~っ？ 何ですか、それ？」と聞かれ、電話をたらい回しにされた。それを考えると今の状況は驚くべきである。今や各地方自治体は、拳って条例や指針で「NPO との協働」を謳い、公設民営の“NPO・市民活動センター”などを設置している。

この NPO 設立ラッシュは暫く続きそうであるが、同時に“良い NPO”と“悪い NPO”のふるい分けも始まっている。背景にあるのは、“悪い”NPO の登場である。NPO を名乗った便乗商法・悪徳商法を営む団体、実態のない団体、営利企業やヤクザ屋さんが隠れ蓑にしている NPO もあると聞く。また、行政や企業から NPO との協働を求める声が高まり、その NPO がどんな団体なのかの情報や評価を知りたがっている、という事情もある。そんな中で、大阪府では、行政自らが「NPO の評価・格付け<sup>12</sup>」を始めるようだ。

新聞報道によると、大阪府による NPO 評価は、チェックシート 50 項目の質問に、NPO 自身が自己採点をした結果をインターネットなどで公開することにしている。質問は、「適切な人数のスタッフがいるか」「安定した収入源があるか」「年度計画や予算書を公開しているか」などが考えられている。これについては、「行政寄りの NPO を生み出すことになる」「行政の介入だ」との反対意見もある。NPO は多種多様な活動や組織形態をとっているのが特徴で、それを、どのような基準で、どんな風に評価していくのか？ また評価者は、誰が適切か？ 行政ではなく、第三者機関に委ねるべきではないのかとの意見もある。

確かに、物事に対して評価をしていくことは必要だ。特に変革や改革を目指す個人や組織に

---

<sup>11</sup> 大阪府の場合は、「評価・育成システム」といい、年度当初に各教職員に個人の 1 年間の目標を書かせ、年度末にその個人目標に基づく「業績評価」と日常の業務遂行の「能力評価」を S・A・B・C・D の 5 段階絶対評価で実施し、その両方で「総合評価」を行う。これは自己評価及び校長による評価である。2003 年度は試行の扱い。

<sup>12</sup> 「NPO 優劣 格付け」 朝日新聞大阪本社版、2003 年 6 月 29 日（日）朝刊、39 面

としては、その方向性を決定する重要な材料となる。しかし、評価は1つのツールにすぎず、それをどう生かし、何に利用していくのかがなければ、ただのデータの集積に過ぎない。

さて、e-dream-s は、8月23日に、第4回定時会員総会を開く。e-dream-s としての1年間の事業（活動）の評価をし、会員全体で確認する1年に1回の機会である。事業方針はどうだったのか？ 執行部の活動執行状況は？ 役員の改選も行われるが、各役員は、役員としての役割を果たしていたのか？ 一会員として会に貢献できたか？ など、様々な点から評価を確認する総会にしたいと思っている。6月下旬から、灰田委員長の下、「役員選任に関する内規作成委員会」がスタートし、現在条文案作りを進めているところでもあるが、それぞれの役割や仕事の定義付けなどの組織整備も進めていきたい。多くの会員の皆さんの総会への参加をお願いします。

しかし、その前に、ECAP 2003 Korea !

いよいよメインイベントのテキスト編集の準備も始まり、ちょっと緊張してきました。これから3週間、しっかりと準備を頑張りましょう。ECAP の成功を、共に！

## ECAP 2003 Korea テキスト作成について

塚本 美紀

6月21日(土)、大阪でテキスト内容検討会を行い、フェニックス・パークで作成するテキストで扱うトピックを検討しました。昨年の12月、数名の先生方にご協力いただき、中学校・高等学校の生徒を対象に行った韓国についてのアンケートをもとに、実行委員会が用意したトピックについて検討しました。いくつか削除し、またいくつか追加して、最終的には12のアイテムにしました。そのアイテムは、(1)文字、(2)恋愛と結婚、(3)食文化、(4)暖房器具、(5)儒教、(6)学校生活、(7)受験戦争、(8)いじめ、(9)徴兵制、(10)サッカー、(11)流行歌、(12)ファッションです。

ECAP 実行委員会は、テキスト編集委員会を結成し、テキスト作成に関する一連の業務を委託しました。テキスト編集委員会は、辻代表理事を編集長とし、辻明美さん、河野良子さん、



山田昌子さん、中川房代さん、道面和枝さん、岡田かおるさんで構成されています。それぞれの編集委員をリーダーとして、テキスト作成の班分けをしています。参加者の皆様には、近日中にリーダーから班のメンバー、協力していただく韓国人の先生、取り扱うアイテムなどについて、連絡がありますので、お楽しみに！テキストのサンプル、各アイテムのポイント、参考文献などをまとめたものを、各班のリーダーを通じてお送りしますので、テキスト作成の準備をよろしくお願いたします。

## ECAP 2003 Korea 参加者について

山本 貴子

先月6月30日に締め切りました、第1回 ECAP 参加者は、大阪22名、東京4名、広島2名、福岡3名の、計31名です。

なお、6月22日を締め切りにしていた無料参加者は、以下の2人の学生に決まりました。彼女たちは、「ECAPの趣旨に賛同し、国際交流・多文化理解教育に関心のある日本人、韓国人、在日韓国・朝鮮人の18歳以上の学生の方」という条件で、提出された応募動機の文書により、募集チーム（辻、中川、小関）で、選考されました。

・北本愛さん（女性）

福岡出身、現在は、アメリカ・メリーランド大学で国際関係を勉強しておられます。

・鄭根珠（ジョン・クンジュ）さん（女性）

東京在住の韓国人留学生、現代日韓関係史を専攻、博士課程の研究テーマは教科書問題だそうです。

また、参加していただける予定の韓国人教師は、次の7名です。

Contact Persons

Mr. Choi, Sung-Kon

Ms. Lim, Jung-Shin

Ms. Kwon, Young-Hee

Candidates

Mr. Kim Kwang-Suk

Ms. Hong Yeon-Kyung

Ms. Chung Bok-Young

Ms. Park Jin-Hee

そのうちの一人、Ms. Hong Yeon-Kyung から塚本さんへ送られたメールを載せておきます。

---

My name is Hong Yeon-kyeong. I'm teaching English in Bulgwang middle school in Korea and I'm in charge of 1st and 3rd grade.  
A few month ago, I heard about this ECAP seminar from my senior teacher and I thought it would be a great chance for me to come in contact with teachers of Japan.

Well, then I'm going to introduce myself with the list-like explanations below.

1. Name: Hong, Yeon-kyeong
2. Female
3. 1st & 3rd grade of Middle school
4. (勤務年数) 4 and a half years
5. (使用できる言語) English & Japanese
6. (ホームステイ) I'm afraid it would be rather difficult for me to provide you with "home-stay"
7. (志望の動機) I think it will be a good opportunity for the teachers to know and understand cultures and histories of Japan & Korea and Korea & Japan. By talking with teachers, I want to share what Japanese teachers and I are interested in the field of education.

Well, I greatly appreciate your invitation and I'm looking forward to seeing you.

have a nice day! ^^

---

## 第3回 ECAP 学習会報告 (大阪)

山本 貴子

日時 6月21日(土)

場所 大阪天満橋 エル大阪(府立労働センター)

時間 テキスト内容検討会 午後2時から3時  
学習会 午後3時から5時

学習会課題図書 呉 善花著 「韓国併合への道」

参加者 井川、辻、灰田、山田、河野、飯田、塚本、岡崎、田邊、稲川、藪、山本

## ファンボクソン（ゲスト）

学習会は、まず課題図書を読み合わせから始まりました。井川先生の解説を聞きながら、改めて朝鮮の地理的問題が歴史に大きく関係していることが分かりました。

また、井川先生が準備して下さった韓国併合にいたるまでの歴史資料（世界の動きと併せて日本の動きが詳しく分かるもの）や英語版資料、38度線で分かれていない朝鮮の地図、その他の資料は、本当に勉強になるものばかりで、有り難いなあ、と思いました。

さらに今回は、河野会長のお友達ファンボクソンさんに参加していただきました。彼女は、学習会からその後の食事会まで参加してくださいました。私は、食事会の時席が隣だったので、在日韓国朝鮮人の問題について、少しですが、直接話を聞くことができましたし、外国人登録証も見せていただきました。「朝鮮人は朝鮮人として、当たり前生きていける社会であってほしい。」と言われるちょっとハスキーなしっかりとした彼女の声、言葉が印象に残っています。

今夏、朝鮮籍の彼女が行くことのできない韓国に行き、自分が何を学べるか。あと一ヶ月足らずですが、よく考え、準備をしていこう、と思っています。

## 第3回 ECAP 学習会報告（東京）

岡田 かおる

日時、場所：6月28日（土）17時50分から19時30分 池袋勤労福祉会館

講師：辻先生

参加者：大竹、佐藤、阿部、富永、須賀、宮城、新谷、増田、藤林、岡田

課題図書：「韓国併合への道」呉 善花

資料：The Partnership between Korea and the United States

Korea since c.1860、20世紀年表

学習会は、20世紀年表を参照しながら、日本の近代国家の成立となった明治維新後から、1910年の韓国併合までの流れと、当時の世界の動きを見ることから始まりました。そして、李氏朝鮮は何年続いたか、文官と武官はどちらが上か、など質問を交えながら、課題図書の読みあわせをし、李朝の伝統や特徴をつかんでいきました。併合に至るまでの韓国内での問題点や、当時の中国、ロシア、アメリカなどの動きを絡めての説明がされ、日本と韓国だけの関係でなく、世界史の流れの中で韓国併合はどのようなものであったのかが理解され

ました。最後に英文資料を読み合わせ、第3者が見たらどうなのか、という点を確認しました。

事実はひとつのはずですが、視点が違えば、とらえ方が全く違うのだ、ということが今回の学習会で強く印象に残りました。私が生まれたのは日韓基本条約締結の2年前。子どもの頃、韓国はアメリカやイギリスよりも「遠い国」でした。検定教科書での「侵略」か「進出」かの記述が問題になった頃は学生でした。日本は酷いことをしたのにそれを認めようとしないう国、私は当時そう理解しました。

学習会の中で触れられた「日韓歴史論争 海峡は超えられるか」櫻井よしこ・金両基著を手にしてみました。過去のことをお互い譲らず主張している対談を、途中で読むのが辛くなってしまいました。視点が違えば、おのずと意見は違ってきます。国家としての見方、個人の見方、立場が違えば様々です。では私はどんな視点を持ってばいいのだろうか。個人として、教育に関わる者として、未来をつくる人を育てる立場の者としてどうなのだろうか。事実を知り、それを踏まえ、お互いに相手を認め合うこと、そして、その先は平和な未来に繋がることを考えていくべきだ、学習会を終え、そのような思いを抱きました。これから私たちの行くことがささやかながらも平和な未来に繋がっていくよう、今後の準備をすすめていきたいと思っています。

## >>>>> "ECAP2004 Vietnam"の準備について <<<<<

飯田 佐恵

"ECAP2003 Korea"も始まっていないのに「これ、何？」と驚く人も多いでしょうが、昨年10月にECAPプロジェクト10年間の開催予定がe-dream-s通信No.27に掲載されたのをみなさんは覚えておられますか。2004年の開催国はベトナムとなっています。

先に断っておきますが、山田さんと飯田がこの実行委員に決まったわけでもなく、2004年にベトナムでECAPを開催することも未だ決まっていません。でも、"ECAP2003 Korea"が終了したあとで、「さあ、次はベトナムだ」ということで取りかかったのではとても時間が足りません。そこで、過去3年間、私がクレオ大阪西の国際交流サロンのボランティアと在大阪ベトナム総領事館の総領事初め他の外交官やその家族の方の日本語学習を手伝ってきた関係から

コンタクトをとることになったわけです。

総領事は多忙なため副総領事のムン氏に"ECAP2004 Vietnam"のご協力をいただくことになった。昨年の10月、山田さんと一緒にムン氏と会って"ECAP2003 Korea"の要項をもとに説明した。コンタクト・パースンの紹介などをお願いしてそのまま2002年は終わった。

4月初め、ムン氏が3年間の在日勤務を終え、ベトナムに帰国されてハノイの外務省勤務になられると決まったので、それまでに何とかムン氏にもう一度お会いして話を詰めておかななくてはと日程を組むのにやきもきした。やっと3月下旬、業務引継や帰国準備で公私ともにお忙しい中、ムン氏とご家族から山田さんと私はお食事に誘われた。歓談しながら"ECAP2004 Vietnam"の実現にご協力いただくことを確認した。ムン氏を通じてハノイとホーチミン市の両教育委員会へ「"ECAP2004 Vietnam"ご協力お願い(山田さん作成の英文のもの)」の正式文書を提出してもらえること、下見でハノイに行ったときはムン氏が案内を引き受けてくださることなど心強い関係ができた。

ムン氏に"ECAP2004 Vietnam"開催候補地ホーチミン市でどなたか協力していただければという人をご存じないかと頼んであったところ、マイ・アインさんに会って直接私から話してみたらということになった。ムン氏のご帰国前日に私は一人でマイ・アインさんに会った。彼女はホーチミン市在住のベトナムの民芸品を輸出したり留学生のホームステイの手配をする仕事をしており、今年の4月にムン氏のご尽力で大阪に自分のオフィスを開いたばかりだった。マイ・アインさんは私がムン氏の知り合いということで、ムン氏と連絡をとりながらこのプロジェクトに協力させてもらおうと言ってくれた。4月末、再度山田さんといっしょにマイ・アインさんと会った。開催候補地を探しもらう、30人のベトナム人の中・高英語教師を集めてもらう、コンタクト・パースン、宿泊所、ホームステイ先、訪問校、教科書の印刷社の紹介等具体的に頼んだ。

二人の協力者は得たものの、実際どこまで動いてもらえるのかが不安だし、ベトナムの事情もほとんどわからないので、できたら早い目にハノイとホーチミン市に行って"ECAP2004 Vietnam"が実施可能かどうかを調査するのがいいのではないかということになり、山田さんと私が8月にKoreaの6日目にソウルからハノイへ飛ぶ計画を立てた。井川顧問に無理なフライトのお願いをした。なのに、くやしいことに私は健康上の理由で医者から韓国にもベトナムにも行くことを止められた。ああ！ムン氏やマイ・アインさんに頼んだことをそのままにしておくのは失礼だし、次をお願いしたとき、同じように快く引き受けてもらえるかどうかかわらないし・・・。折しも5月の第12回の理事会でこの件について提案した。結果、自費だが山田さんと誰かもう一人を募集をして、その二人で調査に行く計画が了承された。そしてラッキー！小関さんが「行きましょう。」と申し出てくださった。小関さんには本当に感謝しています。

先日、マイ・アインさんから山田さんに「8月のホーチミン市滞在中については私が計画しておきます。お二人とも私の家でお泊まり下さい。」とメールが来たそうだ。ハノイについてはムン氏からまだ連絡はないが、娘さんの話によるとムン氏は既に山田さんたちのホテルの予約をしてくださり、ハノイの案内もご自分がしてくださるとのこと。

"ECAP2004 Vietnam"は"ECAP2005 Vietnam"になるかもしれない。でも、ムン氏とマイ・アインさんとのコンタクトは大事に続けたいと思っている。

山田さん、小関さん、報告を楽しみに待っています。 Bon Voyage!

## @aglance 教材作成・収集プロジェクトより

道面 和枝

(1)「今週の使用例」について

@aglance の写真を授業で使用した例を毎週土曜日に更新しています。(更新してから数日は、「土曜更新」のボタンが点滅、新着をお知らせしています。)毎週見ていただいていますか?感想や、アレンジを加えて自分も使ってみたなどの報告などを掲示板に書き込んでいただければと思います。

皆様からのご協力により、さまざまな使用例が紹介されています。これからも各月の担当の方々は、前の月の最終日までに、道面まで送付して下さい。今後は活動の所用時間などの情報も足して、より利用しやすいコーナーにしていきたいと思います。

写真使用の教育的効果(「今週の使用例に掲載された生徒の反応や授業者の感想などより」

写真を使うことで、視覚的に興味をひく。

英文の内容理解を助ける。(写真によってイメージをふくらませる。)

背景知識の理解を助ける。(その国の生活、行事、歴史、宗教など)

異文化に興味を持たせる。

英語の使用場面を生む。(カルタなどのリスニング活動、写真の情景描写などのライティング活動) など

1学期もあと少しですが、以上のような視点で授業に写真をとりいれてみませんか?

## (2) 2学期分の使用例作成(中学校)について

1学期分と同様に、2学期9月初めに向けて、教科書3社の使用例を一挙公開する予定です。シラバス表(使用例に を付けて)と使用例を、8月上旬に、各支部の担当者に送付下さい。なお、「使用目的」(ねらい、何の活動をさせるのか、など)を明確に書いて下さい。

## (3) @aglance の写真の活用を拡大するために

現在は、英語科の授業での使用例にとどまっているのですが、さまざまな方がこのサイトを訪れることを考えると、他教科や選択授業、総合的な学習や小学校での活用で活用した例を挙げていきたいものです。そのためにも、機会をとらえては身近なところでPRして行きましょう。次は私自身が近々行なう、あるいは行なった例です。

(例) 小学校に英語の「出前授業」に出かける際に、小学校の先生に @aglance のパンフレットを見せたり実際にサイトを見せるなどして説明を行なう。また、英語授業でのポスター作り、教材作りなどへの使い方をアドバイスする。

情報教育関連の部会などで、@aglance の写真を使った授業の発表をする。

英語授業の実践発表をする際に、写真を使った例を紹介する。@aglance のパンフレットを配る。

「営業」活動のようですが(!?)、せっかく立ち上げたサイトを、もっと多くの人に使って役立ててもらい、未長く可愛がっていただきたいなと思っています。

## カメルーン・ピグミーとの出会い(その3)

山田 昌子

### <カメルーン人>

ピピンディのエサマ氏(註1)宅に泊めていただいた中川さんと私は、1月1日朝8時30分朝食という予定だったので、迷惑をかけてはいけないと早起きをし準備をして、25分に食堂に入った。エサマ氏のお宅の玄関に入ると、広いホールがあり、シャンデリアが輝き、ソファや飾り棚があったが、1段高くなっているホールの突き当たりに、大きなダイニングテーブルが置かれ、そこが食堂になっていた。が、私たちが食堂に行っても誰もいなかった。自家発電の電気もついておらず、シェフやエサマ氏の使用人たちもいなかった。中川さ

んと私は、ソファーに座り、他の人々を待った。大晦日の夜、私たちはピグミー族と踊りを楽しんでいて（註2）午前3時頃に寝たので、まだ眠くてたまらなかった。果たして、8時30分になっても誰の姿も見られなかった。40分になっても、50分になっても、食堂にいるのは2人だけだった。昨晚、今日の予定を話し合った時、夕方には首都ヤウンデに戻るなら滞在が短く、ピグミーの暮らしが十分わからない、何時に朝食にするか、さんざん議論し、ようやく8時30分に決まった。あの議論は何だったのだろう……。考えていると、ようやく9時頃、マナさん（註3）が「おはよう」と現れた。程なく同行していた私たちの-host P氏が眠そうに起きてきた。シェフや使用人たちも朝食の準備を始めた。エサマ氏も現れた。何故だか、彼らはほぼ同じ時間に現れた。

「ねえ、Pさん、朝食の時間は8時30分じゃなかったの？」

「そうだよ。待たせてごめん。」

「カメルーン人は皆同じ位の時間に起きてきたけど、どうして？」

「別に申し合わせたわけではないよ。」

「カメルーン時間っていうわけ？」

「ハハハッ！」

いわゆる「5分前行動」が身についた日本人と、カメルーン人の行動パターンの違いが明確になったようだった。昨年サッカーの世界カップで「カメルーン時間」というのが話題になったが、カメルーンに滞在して1週間、こういうことは全く初めてだった。リンベの学校を訪問した時、少し遅れた私たちを、休日にもかかわらず、校長先生はにこやかに待っていてくれたし、Pさんも、私たちを待たせるどころか、いつも待つのは彼の方だった。私たちには、まだまだカメルーンっていう国を理解するには至っていないようだ。それに、私は自分では典型的な日本人だとは思っていないが、海外に出ると、やはり私は日本人だったのだ！と再認識してしまう。異文化とは面白いものだ。

#### <お別れの儀式>

野菜が入ったオムレツ、堅いバナナ、炒めた野菜、ミートボールのようなもの、フランスパンをたっぷり食べ、温かなカメルーン・ココアや紅茶を飲み、エサマ宅を去る時間が来た。とその時、昨晚踊った隣の家の敷地から賑やかな声が聞こえてきた。

「このあたりの人々が、お正月のご馳走を作っているんだよ。ラフィア（アフリカの竹）の葉に魚やチキンを置き、蒸し焼きにするんだ。大晦日からの踊りの後、寝ていないから、み



んなでご馳走を食べて、それから寝るんだ。あなたたちはこれで帰るから挨拶をした方がいい。」

エサマ氏に言われ、隣りに行くと、沢山の人が集まっていた。男も女も子供もいた。昨晩は暗かったのでよく見えなかったが、大きな邸宅はエサマ氏宅とその隣りの家だけで、あとは森と木造の小屋のような家しかなかった。ピグミー族を含む近所の人が集まっているようだった。アフリカ柄の布の服を着ている人もいれば、ジーンズやTシャツ、綿シャツの人もいた。昨晩演奏に使った木の幹から作った打楽器もまだ置いてあった。私たちが贈り物にと持って来たワインやいわしの缶詰めの箱も置いてあった。お正月のお祝いの食事に、みんなで飲んだり食べたりするんだらうか？ちなみにP氏によると、一般にカメルーンでは1月1日は祝日で、たいていの職場は休みとなる。日本の正月のように家族で過ごすらしい。



私たちは、エサマ氏の後について、昨晩座らせてもらった洋風建築の家のポーチに立った。明るい歓声と大きな拍手がおこった。すると、遠くの方から可愛い子供が4人歩いてきた。それぞれの子供は、赤い花や花びらをのせた大きな葉を持っていた。赤と緑のコントラストが眩しかった。ピピンディを訪れたゲスト4名（中川さん、マナさん、P氏、私）へのお別れの花だという。ちょっぴり緊張した子供からお花が渡された時、私は、文化や言葉は違っていても、同じような儀式をするんや！と思った。なんだかとてもうれしかった。今度は私たちの番だ。エサマ氏宅を出る時、P氏が「お世話になりお別れをする時、お礼と家計の足しにいくらか渡すのがカメルーンの習慣だから、用意をしておかなくちゃいけないよ。」と教

えてくれた。そして、渡す時必ずそのお札を披露しなければいけないそう。私は、うまくやれるかなとちょっとドキドキしながら、手のひらの中に用意していた 500 CFA フラン札（100 円位）を開け、みんなに見せた。そして大きい声で「ボナネ！（新年おめでとうというフランス語）」と叫んだ。



そして「突然訪問した私たちを大晦日の夜歓迎してくれてありがとう！」と英語で付け加えた。すると、歓声がおこった。口々にみんな「ボナネ！」と言う。中川さんも「ボナネ！」と叫んでいた。そして、人々の中でリーダーに見える女性を選び、お金を渡した。「ボナネ！」「ボナネ！」「ボナネ！」声は一層大きくなった。イエッ！！アフリカはいつものりがよい。

こうして、私たちはエサマ氏宅を後にした。ランドクルーザーに乗り、これから森で狩猟採集をしながら移住生活をしているピグミー族のところに行く。いよいよだ！と思うと、中川さんも私もワクワクした。

---

註1：もとピグミー族のメイヤー。医者。現在も、ピグミー族の教育など様々な事柄に援助をしている。Fondation Camerounaise pour la Promotion des pygmées 会長。e-dream-s 通信5、6月号「カメルーン・ピグミーとの出会い」（その1）（その2）参照。

註2：e-dream-s 通信6月号「カメルーン・ピグミーとの出会い」（その2）参照。

註3：ヤウンデにある Government High School Biyem-Assi の理科の先生。日本の JICA で働いたことがある、自称親日派。e-dream-s 通信 5、6月号「カメルーン・ピグミーとの出会い」(その1)(その2)参照。



---

## お知らせ

---

教育用フォトアーカイブ@aglance が

"Yahoo! JAPAN"の「今週のオススメ」に選ばれました！

インターネットの世界では超有名な"Yahoo! JAPAN" (<http://www.yahoo.co.jp/>) の「今週のオススメ」で、@aglance が紹介されます。

今週のオススメ

<http://dir.yahoo.co.jp/picks/> (7月14日より掲載)

掲載内容は、タイトル、URL、トップページのサムネイル画像、紹介文です。

また同じく"Yahoo! JAPAN"のディレクトリサービス(インターネット総合ガイドとして、サイトをカテゴリに分類してユーザーに紹介)に登録が完了しています。

カテゴリは、top > 教育 > リソース

紹介文には、こう書かれています。

"@aglance - 授業で活用できる世界の画像の投稿受付、使用例。日本語教育用画像も"

実は、このYahoo!への登録は、とても難しいのだそうです。以前は、Yahoo!のホームページから登録すればすぐに登録されていたのですが、1998年夏以降は登録制から審査制となり、またその審査が厳しく、全くと言っていいほど載せてもらえない状態です。その意味で、今回の登録は、@aglanceにYahoo!が認めるだけの価値あるということの意味しているわけです。またアクセス数を増やすための方策を論じたサイトでは、あらゆる点でYahoo!にカテゴリ登録されるのが最も効果があるとされています。

これでまた@aglanceの宣伝になり、アクセスが増えますね。嬉しいことです！

## e-dream-s 第 13 回理事会開催のお知らせ

1. 日時：ECAP 2003 Korea 開催中...8月6日(水)夜を予定
2. 会場：フェニックスパーク(韓国)

## e-dream-s 第 14 回理事会、第 4 回定時会員総会開催のお知らせ

1. 日時：8月23日(土)  
14:00-15:00 e-dream-s・第14回理事会  
15:00-17:00 e-dream-s・第4回定時会員総会  
18:00- パーティ(夕食会)  
・・場所は大阪市内のレストランで・・
2. 会場：大阪市立弁天町市民学習センター「講堂」  
大阪市港区弁天 1-2-2-700(オーク2番街7F)  
TEL 06-6577-1430
3. 議案
  - (1)第1号議案 昨事業年度(2002年6月1日~2003年5月31日)事業報告承認の件
  - (2)第2号議案 昨事業年度収支決算承認の件
  - (3)第3号議案 役員選任の件
  - (4)報告事項 今事業年度(2003年6月1日から2004年5月31日まで)事業計画、及び予算について
  - (5)その他

\*総会・パーティの出欠を、8月15日までに中川までお知らせ下さい。尚、総会欠席の会員は委任状の提出をお願いします。(メールまたはFAXにて)

e-mail: nakagawa@e-dream-s.org

fax : 072-826-3552

## 編集後記

中学 2 年生の英語の教科書に、韓国・朝鮮に関することがらが本文に登場する。King Sejong created Hangul in the 15 th century. や、When you eat in Korea, don ' t bring the bowl up to your mouth. という英文を教える時には、いろいろと説明をしなければいけない。本を読んだり、調べたりしたことを話すのだが、自分も知らないことを話すのは、やはり難しいし、生徒も実感がわかないだろうな、と思う。近くて遠いと言われる国、韓国・朝鮮が、身近に存在し、日本と深いつながりがあることを伝えたい、と思う。いよいよ、ECAP2003 in Korea が 3 週間後に始まる。まずは、自分の目で韓国・朝鮮を見て、人々と知り合う機会が持てることがとても楽しみで、待ち遠しい。私もしっかりと準備をしていきたいと思う。(田辺恵美)